

中学校第2学年 道徳学習指導案

1 主題名 よりよいクラスをつくる【内容項目C-(15)よりよい学校生活、集団生活の充実】

2 教材名 「クラスの痛み（朗読劇）」（出典『中学道徳② きみがいちばんひかるとき』光村図書）

3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

文部科学省の調査によると、いじめの認知件数は小学校高学年から増加し始め、中学校1、2年生でピークを迎える。いじめのないクラスをつくるためには、生徒たちに、いじめが起こる人間関係の特徴や心理的な構造（加害者、被害者、傍観者）に気付かせ、クラスが集団として成長する過程を意識させることが重要である。生徒にとってクラスは、学校生活の大半を過ごす大切な場である。この学習を通して、生徒一人一人が互いに意見を出して話し合う中で、自分にできることを判断し、行動できるようにすることは大変意義深いと考える。

○生徒の実態について

中学生の時期は、友達間でもからかいや冷やかしが見られる。また、友達が悪いことをしていても見て見ぬ振りや、悪いと認識しながらも一緒に行動することがある。本学級の88%の生徒は「先生や学校にいる人のことを大切に思い、よりよい学級や学校生活をつくるために、自分にできることをしているか」という質問に肯定的に答えている。具体的に自分の役割について「自分の係は休まずにしている」と回答した生徒がいた一方、「何をしたらよいか分からない」と回答した生徒もいた。更に多くの生徒が、よりよいクラスをつくるために貢献できるようにしたい。

○教材について

本教材は、主人公で学級委員の「洋子」、いじめをする「鉄也」、いじめを受ける「幸次」の3人を中心として、傍観者の「直美」や「博司」が登場する台詞で構成された朗読劇である。読み手は、登場人物の心情を理解しながら、クラスを舞台にしたいじめの人間関係の特徴や心理的な構造に気付くことができる。また、不登校になった幸次について話し合う学級活動の時間に、直美や博司の傍観者の立場からの提案に対し、加害者の鉄也の本音が語られる。いじめをめぐるクラスの問題に対して生徒たちはどのように向き合っていくのか、この先の展開について考えを思い巡らすことで、クラスの問題解決について考えを深め、自分自身のクラスでの役割を自覚することができる教材である。

○指導について

指導に当たっては、導入で正義感に関する事前調査の結果を紹介し、いじめへと話をつなげ、本時のめあてを提示する。展開前段では、「クラスの痛みとは何か」を問うことで、いじめの構造を生徒の意見からまとめる。展開後段では、鉄也の「おまえらはいつ幸次に声を掛けたんだよ」という本音に対し、いじめを傍観してきた博司と直美の立場から、どう答えるか個人で書かせることで自分を見つめさせる。次に、鉄也に対する台詞について班で考えを話し合わせることで、問題解決について多面的・多角的に考えさせる。終末では、自分たちで考えた台詞を鉄也に言えるかどうかを判断させる。「はい」「いいえ」どちらを選んでも、これから具体的にすることを生徒に問うことで、道徳的実践につなげていくことができると考える。

4 ねらい

いじめがあるクラスの人間関係の問題に気づき、クラスの問題解決に必要な道徳的判断力と実践への態度を養う。

5 展開

	学習活動	主な発問（○）と予想される反応（・）	指導上の留意点 <small>期待される生徒の姿（教師の願い）</small>
導 入 ／	1 前時の授業を振り返り、事前調査の結果を知る。	○「私たちの道徳」のp.162のグラフです。なぜ、だんだんと止められなくなるのでしょうか。 ・自分が嫌われるかもしれない。 ・面倒くさく感じる。・嫌がらせをさる。	・友達が悪いことをしたときに、なぜ止められないのかを尋ねた事前調査の結果を紹介し、傍観者の視点からいじめの問題を考えさせるための導入とする。
	めあて：クラスの問題にどう向き合うか考えよう		
展 開 ／	2 朗読劇を見て、洋子のクラスの痛みについて考える。	○博司と直美はどんなことを考えたでしょう。 ○このクラスの痛みとは何でしょう。 ・いじめ ・不登校 ○加害者、被害者は誰ですか。 ○クラスの痛みはこれだけですか。	・資料のよさを生かすために、電子黒板で朗読を流す。 ・p.94の洋子の発言「みんなも…そう思うでしょう」で一旦停止し、この場面で博司や直美が感じたことを考えさせる。 ・板書に登場人物を整理し、人間関係を構造化する。 ・加害者、被害者だけでなく、傍観者についても問題があることを押さえる。
			・学級全体がいじめに関係している「いじめの構造」に気付いている。
終 末 ／	3 自分を見つめる。 ・自分の考えを書く。 【書く活動①】 ・班で考える。 【話し合い】 ・全体で考える。	○鉄也の発言に、あなたが博司や直美だったらどう答えますか。 ・いじめをしている鉄也が悪い。 ・そのとおりだと思う。 ○班で1つずつ台詞を考えましょう。 ・幸次が嫌がることをしていた鉄也は、反省したほうがいい。 ・何もしていない自分たちも悪かった。 ・クラスみんなで幸次を迎えに行こう。	・はじめに個人で考える時間を取ることで、自分を見つめさせる。 ・4人班で、自分の考えを紹介させる。 ・傍観者の立場で、鉄也に対してどのように答えるか、台詞を考えさせる。 ・各班ごと1つのホワイトボードに書かせ、黒板に掲示する。 ・出た意見を全体でKJ法でまとめる。
	・自分だったらどうするか考える。 【書く活動②】	○考えた台詞を鉄也に言えますか。 【言える】○どんな台詞を言いますか。 ・自分たちも悪かったと思う。 ・鉄也も一緒に幸次が来られるよう、できることを考えよう。 【言えない】○できることを書きましょう。 ・幸次と仲良くなれるよう、家に行く。 ・他人事と思わず、みんなと話す。	・自分の立場にネームプレートを貼らせる。どちらを選ぶかに正解はないことを伝え、選んだ立場で、これからどうするかを書かせる。 ・具体的にどうしたいか、理由付けしながら自分のとる行動を判断し、考えようとしている。
	4 自分の考えを深める。 【書く活動②】	○クラスの問題にこれからどう向き合いたいと思いますか。 ・クラスの一員として、悪いことは悪いと言う。 ・一人だけでは解決できないことも、みんな協力して解決していきたい。	・学習のめあてを再確認し、振り返らせる。 ・クラスの一員として、自分にできることを考え、できることをしていきたいという気持ちをもっている。